



隠岐の島町 田中さん、県共で首席獲得！！

平成28年度島根県種畜共進会が10月22日に開催されました。

このうち肉用種牛の部第4区成雌牛区（20頭出品）で、隠岐の島町の田中美砂子さんご出品の「やすめぐみ」号が首席に輝きました。

首席になった「やすめぐみ」号は、平成27年2月23日生まれで、月齢は当日19か月29日で、体高131cm(発育判定5)と十分な発育をしており、輪郭鮮明で、前軀～中軀～後軀への移行も滑らかで骨味も良好、品位に富んだ種牛性の高い成若雌で堂々たる首席でした。

隠岐の島町からは15年ぶりの県共出品、首席獲得は初であり、また、血統は父が恵茂勝、祖父が糸安茂、曾祖父が茂弘桜と三代祖が全て県有種雄牛での快挙でした。

ぜひ、隠岐の繁殖牛として立派な後継牛を生産し活躍することを期待しております。



牛異常産関連ウイルス(ピートンウイルス)について

家畜保健衛生所では、牛異常産の発生を予察するため、アルボウイルス（ヌカカなどの吸血昆虫が媒介するウイルスの総称）抗体保有状況を調査しています【6、8、9、11月の計4回】。

今年度は、8月と9月の検査でピートンウイルスに対する抗体の上昇が、隠岐の島を除く県下全域にて認められました(図)。

当所管内でも8月以降に16頭中8頭で感染が確認され(注：感染＝発症ではありません)、今後、異常産に対する注意が必要と考えられます。



<ピートンウイルスとは?>

アカバネウイルスやアイノウイルスと同じウイルス属で、国内では1999年に長崎県で初めて分離され、2005年以降、九州を中心に牛異常産の発生事例が散発的に報告されています(年間数頭から10頭程度の発生)。

このウイルスによる異常産では、体型異常が特徴的に認められ、過去の発生報告では脊柱の彎曲、前肢の屈曲、膝関節・飛節の拘縮がみられています。

異常産を発見した場合は、獣医師や当所へご相談ください。



牛の呼吸器病を予防しましょう

急に寒くなってきましたね。牛にとっても、冬はウイルス等による病気が増える季節です。県内で毎年のように起こっている代表的な病原体とその対策をご紹介します。

- 牛RSウイルス：呼吸器症状と発熱が長期間持続します（5～6日）。
症状は重く、多量の鼻汁や発咳を呈します。
- 牛コロナウイルス：下痢のほか、発熱や咳などの呼吸器病にも関与します。
水溶性下痢や血便を呈し、泌乳量が激減することもあります。

呼吸器病は、離乳や移動、群編成、気候の変化、密飼い、換気不良（喉・気管の粘膜損傷）といった**強いストレス**がかかると発症しやすくなり、さらに2次的に細菌感染（パスツレラ、ヒストフィルス等）が起こって重症化してしまいます。なかでも怖いのがマンハミア・ヘモリティカ（Mh）という細菌で、単独感染でも牛を死に至らしめます。

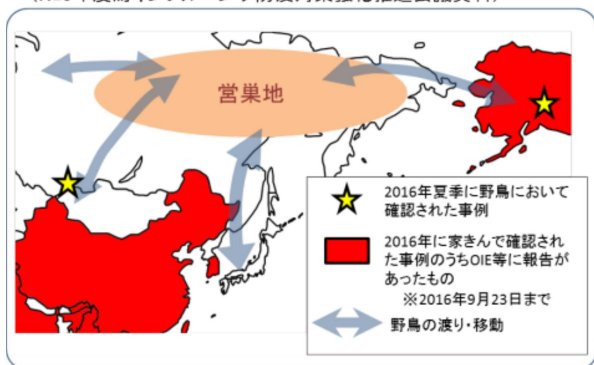
- Mh：健康状態では鼻腔などに少数常在していますが、ストレス等により免疫力が低下すると、病原性Mhが増殖して肺に移動し、肺炎を引き起こします。

病原体だけでなく、飼養環境によるストレスも呼吸器病発症の大きな要因の1つです。

清潔な環境（防寒・換気・乾いた敷料）を整えるとともに、
呼吸器病発生時のまん延防止のため、早期発見・早期治療に努めましょう。

南ロシアの野鳥からH5亜型ウイルスを検出

海外での高病原性鳥インフルエンザ発生状況
(H28年度鳥インフルエンザ防疫対策強化推進会議資料)



高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は、中国等において引き続き発生しているほか、野鳥については、本年6月にロシアのモンゴルとの国境付近において、アオサギ等の水鳥からH5亜型のHPAIウイルス（HPAIV）が、8月に米国アラスカ州において野生マガモからH5N2亜型のHPAIVがそれぞれ確認されています。

なかでも中央アジア飛路に位置する南ロシアでのウイルス検出については、過去2回（2006年・2010年）、最初の検出から18か月以内に朝鮮半島や日本へのウイルスの移動が起こっていることから、今後新たにウイルスが国内へ持ち込まれる可能性があります。引き続き、飼養衛生管理基準を遵守し、ウイルス侵入防止に努めてください。

島根県松江家畜保健衛生所

○本所（島根県東部農林振興センター松江家畜衛生部）

〒699-0109 松江市東出雲町錦浜 474-2

TEL (0852) 52-5230 公用携帯 080-1935-0883 FAX (0852) 52-3377

○隠岐支所（島根県隠岐支庁農林局家畜衛生部）

〒685-0015 隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24

TEL (08512) 2-9690 公用携帯 080-1935-0886 FAX (08512) 2-9657